

(1) 現況特性の整理図(植栽)

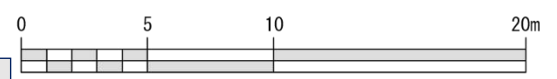
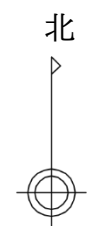
高木凡例			低木凡例		
常緑区分	樹種記号	樹種名	常緑区分	樹種記号	樹種名
常緑	うば	ウバメガシ	常緑	アベ	アベリア
	きも	キンモクセイ		アジ	アジサイ
	しら	シラカシ		イツ	イヌツゲ
	すだ	スダジイ		オツ	オオムラサキツツジ
	とネ	トウネズミモチ		サツ	サツキツツジ
	びわ	ビワ		ドツ	ドウダンツツジ
	もこ	モッコク		ヒツ	ヒラドツツジ
	もち	モチノキ		リツ	リュウキュウツツジ
	やも	ヤマモモ		しな	シヤクナゲ
	ゆハ	ユズリハ		ヒナ	ヒヨウギナンテン
	なみ	ナミ		ビヤ	ビヨウヤナギ
	ベニ	ベニカナメモチ		ボケ	ボケ
針葉	くら	クロマツ			
	さわ	サワラ			
	ひま	ヒマヤスギ			
落葉	アシ	アサヒデ			
	イモ	イロハモミジ			
	ウメ	ウメ			
	エノ	エノキ			
	ケヤ	ケヤキ			
	コナ	コナラ			
	サク	サクラ			
	ザク	ザクロ			
	シダ	シダレザクラ			
	すも	スモモ			
	ノム	ノムラモミジ			
	ハカ	ハナカイドウ			
	ヒリ	ヒメリンゴ			
	ムク	ムクゲ			
	ヤク	ヤマダマ			

- ★ ソメイヨシノ
- ★ シダレザクラ
- ★ ウメ
- ★ モミジ
- ★ クロマツ

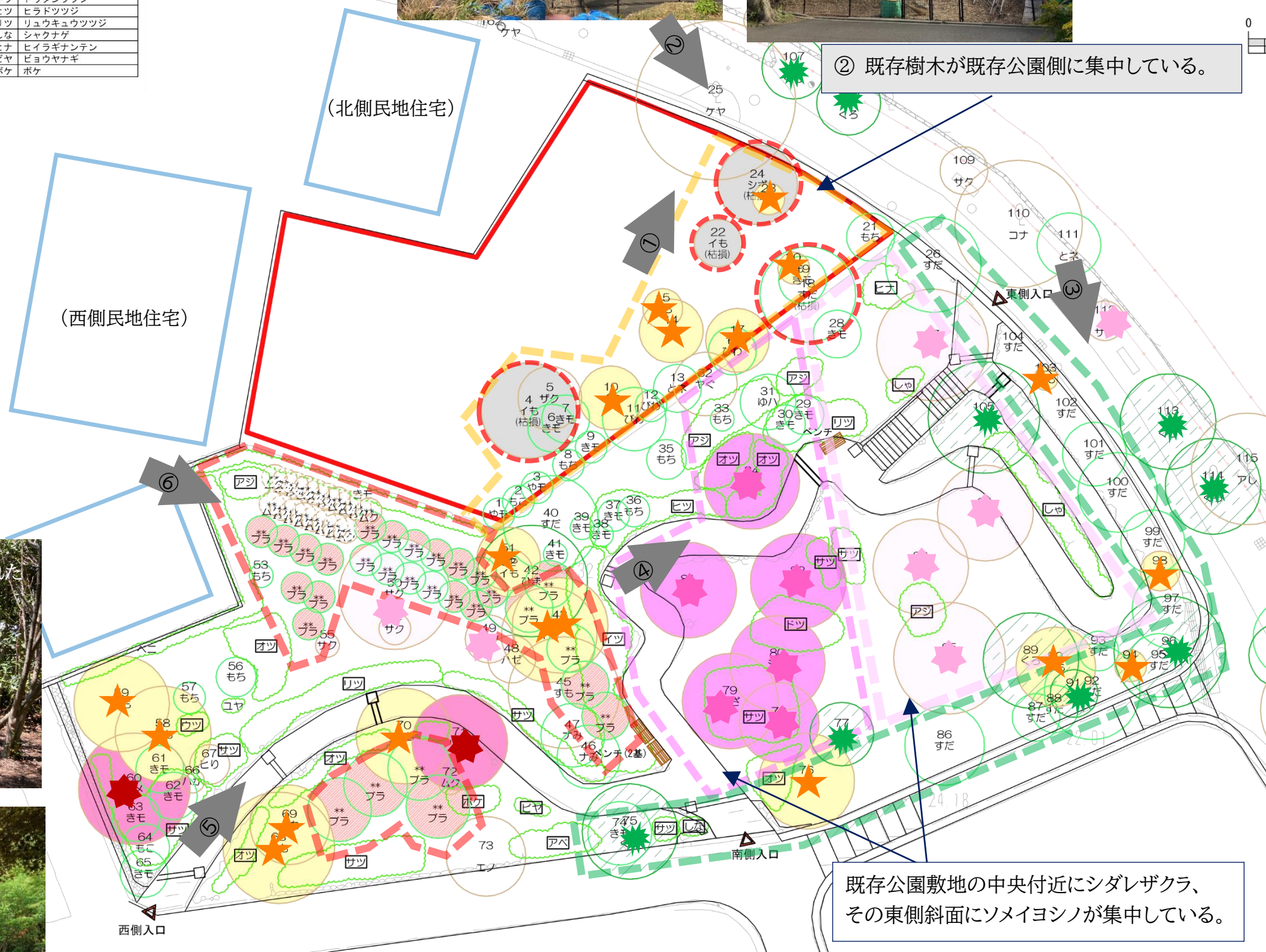
① 増設地から池を眺めた様子



<増設地>...
 枯損樹木...



S=1:300 (A3)



② 既存樹木が既存公園側に集中している。

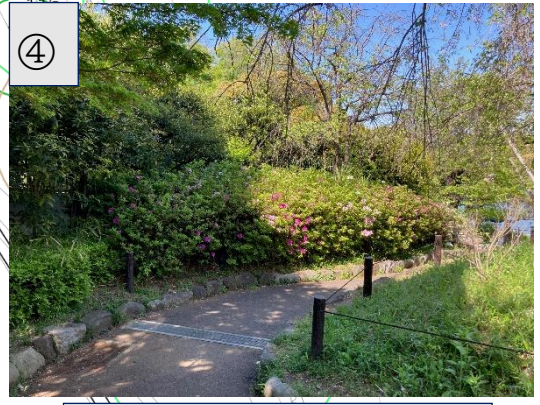


③ スダジイの列植・クロマツが既存公園敷地の外側に集中しており、池への見通しに影響。



⑤・⑥ ムクゲ・ブラシノキの密植状況(北側)

既存公園敷地の中央付近にシダレザクラ、その東側斜面にソメイヨシノが集中している。



④ 高めの低木と密植状況

○全体的なポイント
 ・池への見通しを悪くしている樹木がある。(要解消)
 ・木の密度が高く、鬱蒼としている部分がある(要解消)

(3)コンセプト図

コンセプト (通称)しだれ桜山と一体の緑、池の景色を楽しむ静かな散策路

池の眺め

ポイント **1** 高低差を活かして眺望を楽しむ

高低差の大きい地形を活かすことで、小高い場所や、様々な角度から池の眺めを楽しめるようになります。 視点場(ビューポイント)を新たに設けることで、新たな池の表情を探す楽しみと、名勝洗足池公園の**本質的価値である「景観」の美しさ**をより実感できます。

～イメージ～



千葉 青葉の森公園

出典:一般財団法人千葉県まちづくり公社ホームページ
(<https://www.cue-net.or.jp/kouen/aoba/annai/recreationzone.html>)



京都 修学院離宮

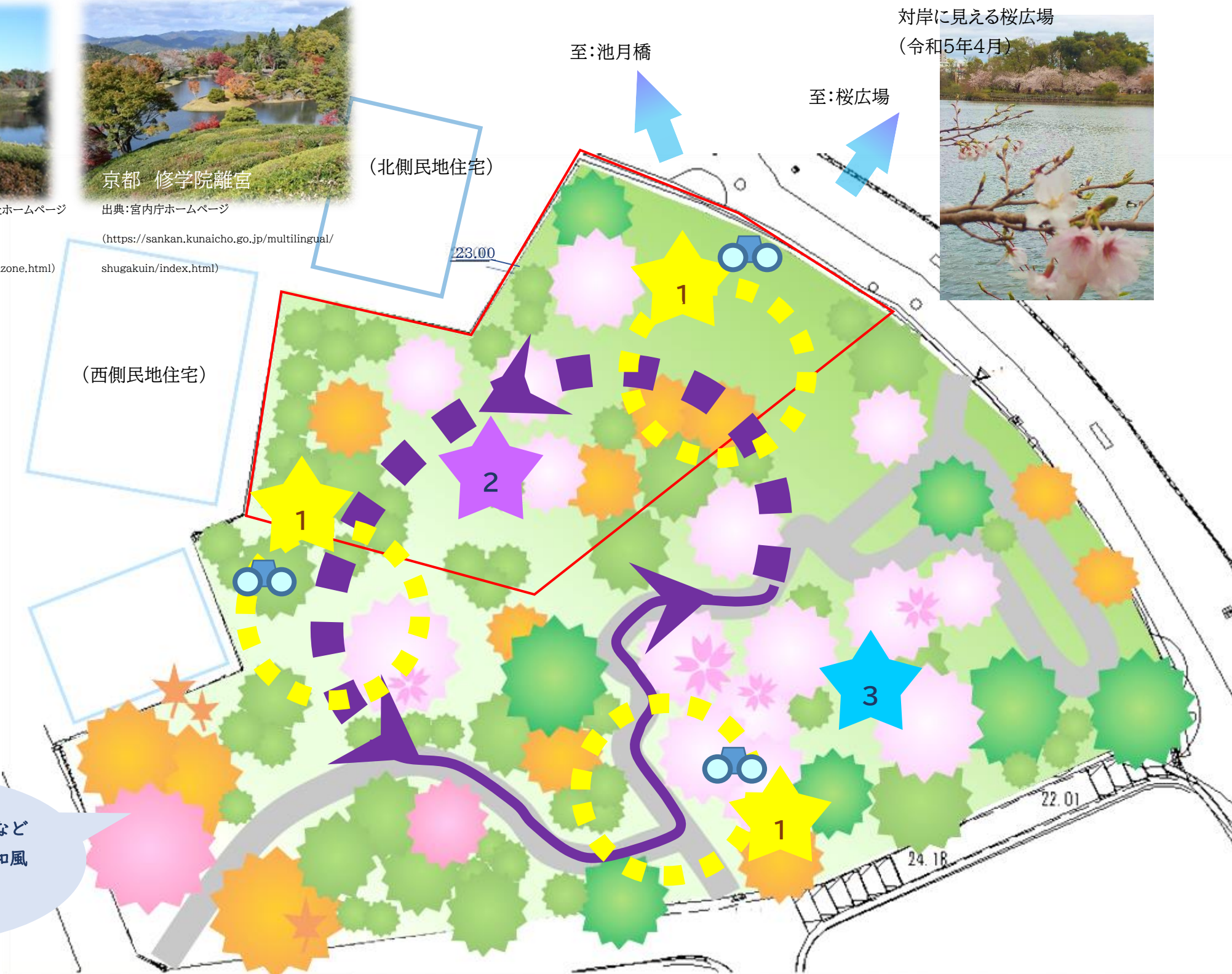
出典:宮内庁ホームページ
(<https://sankan.kunaicho.go.jp/multilingual/shugakuin/index.html>)

散策の楽しみ

ポイント **2** 園内を周回して散策できる「回遊性」の付加
既存公園と増設地の園路を一体的に整備することで、園路を巡りながら景観の展開を楽しめる散策ルートができます。これにより、回遊性の向上のほか、**本質的価値である「自然とのふれあい」**も一層体感できるようになります。

緑の保全

ポイント **3** 主役となる樹木の維持と新植
既存公園内には見ごたえのあるサクラやモミジ、マツがあります。これらは保全し、計画地に同様の樹種を新植します。また、樹木の根の範囲と景観(緑)に配慮した園路線形を計画することで、対岸から見た敷地の景観を保全します。



対岸に見える桜広場 (令和5年4月)



敷地を対岸から見たところ (令和5年4月)



(西側民地住宅)

(北側民地住宅)

至:桜広場

至:池月橋



S=1:300 (A3)



モミジ、サクラ、マツなどが、池月橋にもなじむ和風の空間を演出します。

(4) 基本ゾーニング図

ゾーン① ビューポイントとしての整備

- ・ 主要な樹木を残し、池への視線を遮る中木は移植して見通しを確保する。
- ・ ベンチは隣接する住宅から距離を取り、互いの視線が合わない配置とする。
- ・ ビューポイントへのアクセスのし易さに配慮する。

ゾーン② 見通しの確保と斜路の改良

- ・ スダジイとシャリンバイを間引き、池への見通しを確保する。
- ・ 手すりを設置する(整備範囲の傾斜路全般)

ゾーン③ 樹林地の保護(サクラ)

- ・ メインとなるソメイヨシノとシダレザクラ、クロマツ、モミジ、スダジイで形成される植栽景観を維持する。

ゾーン④ 回遊性の向上と背景林の形成

- ・ ムクゲやブラシノキを移植および撤去、背景林樹木となる高木を植栽。
- ・ 万年堀沿いの盛土部分の高さを下げ、地形をなだらかにする。
- ・ 増設地と既存公園間を行き来できる園路を整備する。

ゾーン⑤ 樹林地の保護(モミジ)

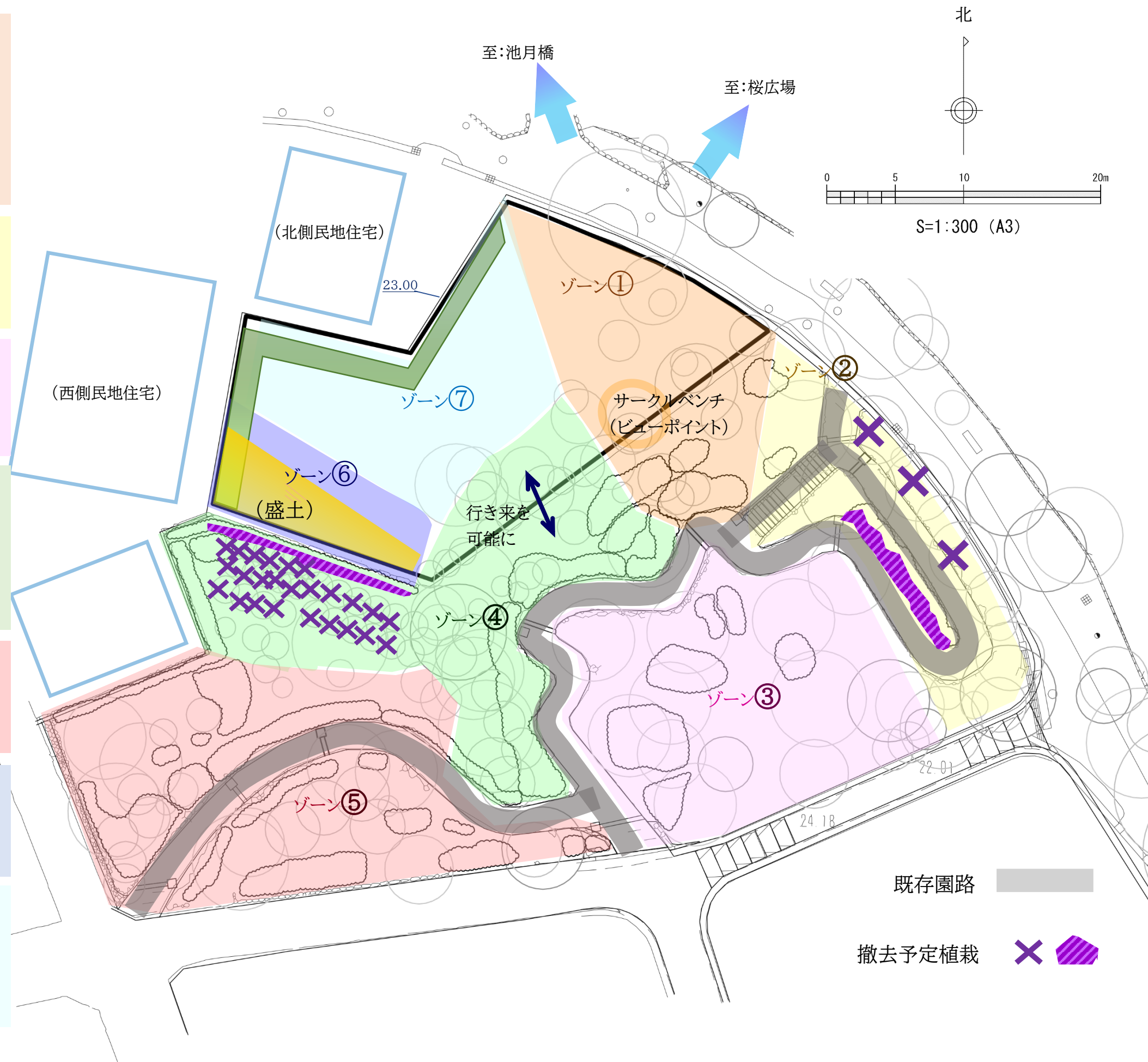
- ・ モミジ、ソメイヨシノ、ウメを主体とした植栽景観の維持。
- ・ 南側のブラシノキは残す。

ゾーン⑥ 段差の緩和と背景林の形成

- ・ L型擁壁による段差を盛土によって緩和する。
- ・ 背景林として、シダレザクラやウメ、モミジ等の中木を主に配置する。

ゾーン⑦ 住宅との間の緩衝緑地

- ・ 住宅側と公園側の両方から見通せる植栽密度とする。
- ・ 住宅とビューポイントの間には遮蔽植栽を配置する。
- ・ 植栽地に立ち入らないよう、ロープ柵で仕切る。



(5) 園路パターン図







現況

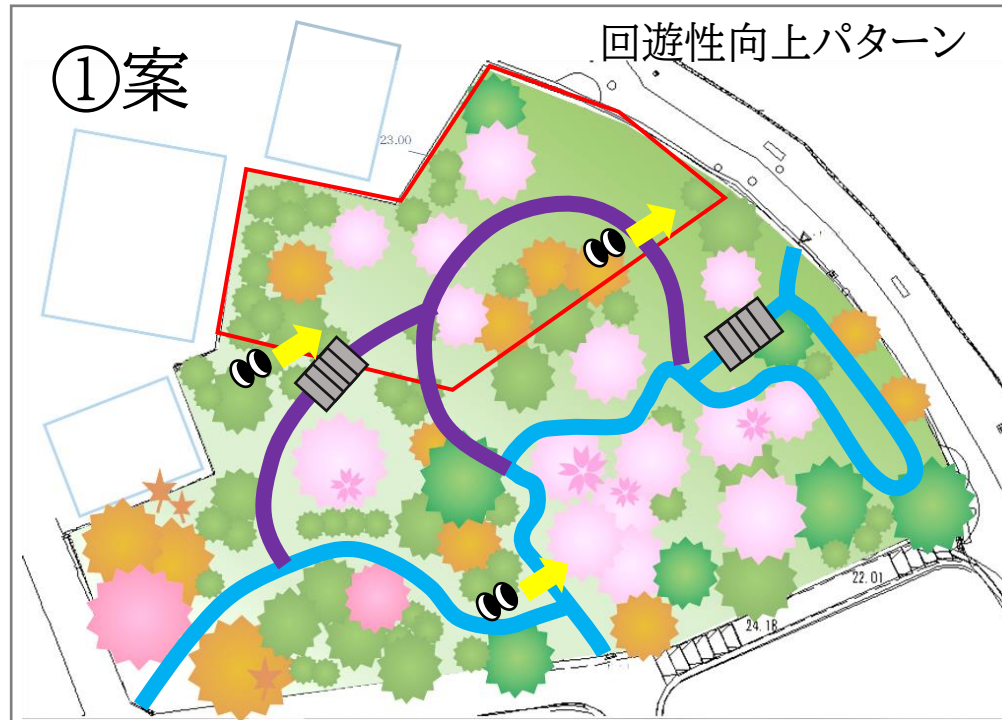


全体面積: 2,284.2 m²

(既存: 1,707.1 m² + 増設地: 577.1 m²)

園路の延長: おおよそ 110~120m

-  増設地
-  ビューポイント(ベンチなど)
-  既存園路
-  新設園路
-  廃止する園路
-  階段



①案

回遊性向上パターン

- ・回遊性の高さ、散策の楽しさを考慮した園路。
- ・既存の園路はそのまま活用。
- ・ビューポイントの行き来がしやすい。
- ・車いす利用者も回遊しやすい。

バランス
園路: 多
緑: やや少



②案

緑の全量重視パターン

- ・園路を最小限にとどめ、緑の量を重視。
- ・既存の園路を一部廃止。
- ・ビューポイントへのアクセスルートを確認。
- ・位置によっては近くで見ることができない樹木も。

バランス
園路: 少
緑: 多

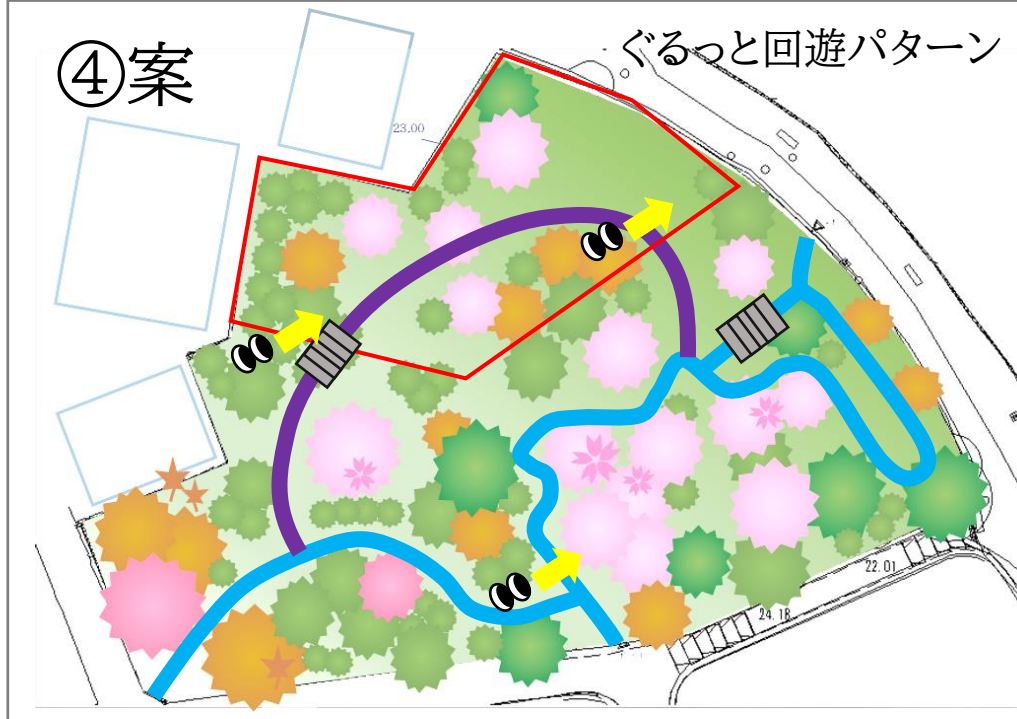


③案

緑と回遊性両立パターン

- ・回遊性を高めつつ、緑の量にも配慮。
- ・既存の園路を一部廃止。
- ・ビューポイントへのアクセスルートを確認。

バランス
園路: 中
緑: 中



④案

ぐるっと回遊パターン

- ・回遊性を高めつつ、緑の量にも配慮。
- ・既存の園路はそのまま活用。
- ・ビューポイントへのアクセスルートを確認。

バランス
園路: 中
緑: 中